

令和7年度 杉並区中・高校生委員会 活動報告書



はじめに

『走り続けた1年間!』

児童館では中・高校生の活動を応援しています。特に地域中・高校生委員会の置かれている児童館、子ども・子育てプラザは中高生重点館としてより力を入れた取り組みをしています。

今年度も3つの児童館（堀ノ内東・四宮森・高井戸）と子ども・子育てプラザ善福寺にある地域中・高校生委員会とゆう杉並中・高校生運営委員会の計5つの委員会が各地域で活動を展開しました。と同時に、みんなが集まって一つのテーマを1年間考える合同事業にも取り組みました。

今年度の合同事業のテーマは「私たちの考える中高生機能優先館」です。このテーマは昨年の合同事業のテーマ「中高生にとって利用しやすい児童館」で考えてきたことをベースに、自分たちの活動する施設が令和9年度から順次開設する「中高生機能優先館」に指定されたと仮定し、施設を利用する中高生の生の意見を表明する機会にするべく設定しました。

そして、6月下旬にみんなが集まって取り組みの趣旨の説明し、委員の声を取り入れながら取り組み内容を決めた交流会から取り組みをスタートしました。そして2月に区長をお招きしての活動報告会まで約8ヶ月で5回にわたり活動を展開してきました。担当の職員も企画を始めた4月からまさに1年間走り続けてきました。この場を借りて感謝の気持ちを伝えさせていただきます。

この報告は、各中・高校生委員会の取り組み及び合同事業の経過報告と活動報告会での発表をまとめたものです。ぜひご覧いただき、各委員一人一人の活躍を感じていただければ幸いです。

令和8年3月 杉並区中・高校生委員会合同事業
事務局代表 高井戸児童館
館長 金子 恭朗

児童青少年センター（ゆう杉並）中・高校生運営委員会とは

平成9年のゆう杉並の開設時から活動しています。中学生・高校生対象の児童館「ゆう杉並」を、中・高校生の目線でどうすれば使いやすい施設に出来るかなどの運営のチェックをしています。

また、ゆう杉並の利用者のアイデアをイベントにする自主企画の応援も積極的に行うなど、中・高校生が運営に参画し、職員と一緒に楽しいゆう杉並を作ろうと頑張っています。

地域中・高校生委員会とは

平成14年から区内7つの児童館で開始しました。（現在は4か所）それぞれの児童館が中・高校生にとってより魅力のある施設になるように、また杉並区がより住みやすい街になるように、メンバーが意見表明し、社会参画できるように取り組んでいます。

目次

1 中・高校生委員会活動報告

- (1) 高井戸児童館地域中・高校生委員会……………1
- (2) 四宮森児童館地域中・高校生委員会……………3
- (3) 堀ノ内東児童館地域中・高校生委員会……………5
- (4) 子ども・子育てプラザ善福寺地域中・高校生委員会……………7
- (5) 児童青少年センター（ゆう杉並）中・高校生運営委員会……………9

2 杉並区中・高校生委員会合同事業 活動報告

- (1) 第1部 準備・交流会……………11
- (2) 第2部 施設見学会 ～児童青少年センター ゆう杉並～……………14
- (3) 第3部 施設見学会 ～港区赤坂子ども中高生プラザ なんて～も……………17
- (4) 第4部 児童青少年課長との懇談……………21
- (5) 第5部 活動報告会……………23
- (6) 発表内容報告 高井戸児童館地域中・高校生委員会……………27
 - 四ノ宮森児童館地域中・高校生委員会……………31
 - 堀ノ内東児童館地域中・高校生委員会……………35
 - 子ども・子育てプラザ善福寺地域中・高校生委員会……………39

<資料>

- 杉並区地域中・高校生委員会設置要領……………42
- 児童青少年センター（ゆう杉並）中・高校生運営委員会設置要領……………44



1 中・高校生委員会活動報告

高井戸児童館地域中・高校生委員会

【メンバー構成】

中学生：9名 高校生：1名 計10名

委員長 山崎 大護

副委員長 藤南 明日香

PR：学年をこえていつも楽しく活動しています！

【委嘱式・定例委員会・その他活動報告】



【活動日】	【イベント名】	【参加人数】(委員人数)	【内容】
5/21 (水)	委嘱式	(9名)	委嘱状の交付、質疑応答
7/19 (土) ・26 (土)	小学生 デイキャンプ	49名 (9名) 50名 (2名)	19日はナイトウォークプログラムでチェックポイントを担当。 26日にはゲームの説明でデモンストレーションや、小学生が楽しく参加できるように進行の補助として参加。
8/20 (水)	第4回タカッシュ ブラザーズ	11名 (5名)	委員会恒例の人気ゲーム大会。1対1や複数での対戦を企画。普段利用のない中学生の参加もあり、とても盛り上がった。
10/26 (日)	第40回 高井戸・久我山 子ども秋まつり	981名 (10名)	「ポップコーン」の出店をした。当日は雨だったが、たくさんのお客さんが来てくれて喜んでくれていた。
3月実施予定	高井戸児童館合宿 (仮)	—	メンバーで合宿を行い、「進級・進学おめでとう会」についての詳細を決める。合宿ならではの楽しみも実施予定。
4月実施予定	進級・進学 おめでとう会	—	進級・進学した中学生・高校生向けにゲーム等で交流する。そして中・高校生委員会をPRし、次期メンバーの勧誘につなげる。

定例会 計19回開催 延べ 99名参加 (2月13日現在)

たかいどデイキャンプ

準備は色々難しいところもあったけど、委員同士協力して楽しく進めることができた。中でもボール落としの準備が楽しかった。当日は、暗い中でも小学生の楽しそうな顔が見られてうれしかった。



第4回タカッシュフラガーズ

敗者復活無しの形式でのトーナメントを開催しました。前回優勝者にハンディキャップを設定するなど、とても楽しい大会になりました。



第40回 高井戸・久我山子ども秋まつり

初めて行う体験で不安はありましたが、小学生と関わって「高井戸児童館の地域中・高校生委員会」に入って良かったなと思いました。お店もやりがいがあって「ポップコーン」として美味しかったです！

中・高校生委員はポップコーンのお店をやりました。地域の人に「おいしい！」とご意見をもらって、こちらも嬉しくなりました！！

🦋 四宮森児童館地域中・高校生委員会 🦋

【メンバー構成】

中学生 2 名 高校生 13 名

【年間目標】

「柔軟な考えを持つ委員達」

【PR】

「みんなの意見を取り入れながら活動しています！」



四宮森児童館地域中・高生委員会
マスコットキャラクター
「もいたろう」

【委嘱式・定例委員会・その他活動報告】※定例委員会は月 1 回～2 回程度開催

【活動日】	【イベント名】	【参加人数】 (委員人数)	【内容】
5/28(水)	委嘱式	(8名)	委嘱状の交付。課長や参列した青少年委員さんから励ましの言葉を頂く。
9/7(日)	井草センターまつり	(7名)	ボランティアとしてプラバン工作やピンボール、千本引きの協力。
10/4(土)	四宮フェスティバル	(3名)	四宮小学校での行事「四宮フェスティバル」で、スライム屋の協力依頼を受ける。PTAの方たちと一緒にスライム屋さんを盛り上げた。
10/11(土)	四宮小学校地域子育てネットワーク事業「もりもりパラダイス」	411名 (9名)	児童館のお祭り「もりもりパラダイス」において、カジノ(ダーツ、チンチロ、ハイ&ロー)を出店。
11/29(土)	ゆうゆう四宮館ゲーム大会	(2名)	高齢者の方とボードゲームなど(スティッキー・ドミノ・なんじゃもんじゃ・お化けキャッチ・カタカナージ)を通して交流を行う。
1/25(日)	第41回 四宮森もちつき大会	579名 (7名)	会場のレストランで机拭きやお客さんのご案内を、昔遊びコーナーではけん玉やこまを子ども達と一緒に楽しんだ。
3/1(日) (予定)	井草地域区民センター「春まつり」	—	工作ブースで、紙コップペンギンやプラバンを担当予定。

定例会 計 10 回開催 延べ 75 名

【活動の様子】

5/28「委嘱式」

今回の中高生委員は新規のメンバーは一人も増えず、昨年からの継続メンバーでのスタートでした。その分、共通認識がたくさんあり、意見が共有しやすく、昨年よりクオリティーの高い企画が考えられると楽しみな気持ちもありました。



9/7 「井草センター祭り」

地域の人と協力して千本引きとピンボール、プラバン工作を行いました。当日は大盛況でどのお店にもぎわい行列ができるほどでした。厳しい暑さの中で大変でしたが、たくさんの笑顔を見ることができ、充実したセンター祭りとなりました！

10/4 「四宮フェスティバル」

スライム屋の協力依頼を受けました。今年はビーズをデコレーションとして入れるなど新しい挑戦をしてみました。「1つだけじゃ物足りない！」と言って複数回並んでくれた子どもも多くいてスライム屋さんは大成功に終わったと思います！



10/11 四宮小学校地域子育てネットワーク事業 「もりもりパラダイス」

今回は、カジノを出店しました。委員達で話し合っ、チンチロ、ダーツ、ハイ&ローを出店することに決め、小学生達が理解しやすいルールを考えました。当日も大盛況でたくさんの小学生達を楽しませることができました。

11/29 「ゆうゆう四宮館 ゲーム大会」

高齢者の方と脳トレを交えたボードゲームを通して交流しました。スティッキー・ドミノ・なんじゃもんじゃ・お化けキャッチ・カタカナナーシなどのカードゲーム・ボードゲームをしました。初めての試みで緊張しましたが、高齢者の方とても良い時間を過ごせました。



1/25 「第41回四宮森もちつき大会」

今年度も、もちつき大会が開催されました。私たちもスタッフとしてお手伝いをし、小学生達と触れ合うことができました。もちつきの他にも昔遊びを体験できるスペースもあり、小学生達にも大変好評でした。

堀 / 内東児童館地域中・高校生委員会

【メンバー構成】

中学生 5名 高校生 7名

【年間目標】

「一つ一つの出会いを大切にし、
今後の活動につなげていく。」



定例会の様子

【PR】

「今年は9名の新メンバーを迎え、継続メンバーと支えあいながら活動しました！」

【委嘱式・定例委員会・その他活動報告】

【活動日】	【イベント名】	【参加人数】（委員人数）	【内容】
5/28（水）	委嘱式	14名（5名）	委嘱状の交付。
7/12（土）	ほりとんわくわく 博覧会	455名（2名）	児童館行事への参画を目的とし、小学生の出店の手伝いを行う。
8/6（水）	SMBR 大会	7名（2名）	小学6年生～高校生までを対象に大画面ゲーム大会を行う。
10/12（日）	わだのあきまつり	児童館からの参加者数 8名（2名）	地域の主催者の方からお声がけいただき、司会を務める。
12/6（土）	絵本会	18名（2名）	乳幼児から小学生を対象に、委員が選んだ本を読み聞かせする。
12/14（日）	セッション クリスマス会	児童館からの参加者数 8名（5名）	地域の主催者の方からお声がけいただき、司会や工作コーナーの手伝いを務める。
1/25（日）	ほりとんもちつき大会	392名（6名）	児童館行事への参画を目的とし、かまどやもちつきなどを務める。
3月実施予定	マシュマロクッキー づくり♡	（3名）	中高生を対象にクッキングを行う。
3月実施予定	スキンケア講座	（3名）	中高生を対象にスキンケア講座を行う。

定例会 計16回開催 延べ35名



自主企画

【SMBR 大会】

小学6年生から中高生を対象に、参加者同士が交流できる場を作りたいという思いから計画しました。

児童館の大きなスクリーンを使って、一緒にゲームを楽しみ、学年が違ってみんなでも盛り上がりました。



地域行事

【セッションクリスマス会】

今年も地域の主催者の方からお声がけいただき、司会・工作コーナーの手伝いなどを務めました。

地域の方と交流をすることができ、とても楽しい会でした。



児童館行事

【ほりとんもちつき大会】

小学生や地域の方と協力して、かまどやもちつき、開会式でのあいさつをしました。

異年齢での交流をしたり、伝統芸能に触れたり、と貴重な経験をすることができました。

おわりに

私たち堀ノ内東児童館の地域中・高校生委員会は、さらなる地域貢献、児童館事業への参画が出来るように活動を続けていきます！

子ども・子育てプラザ善福寺 地域中・高校生委員会

【メンバー構成】

委員長 神田 十和 副委員長 本橋 侑樹
副委員長 仁枝 直也
中学生6名 高校生11名 計17名

【年間目標】

みんなで協力し合い、楽しく活動する！

【PR】

委員一人ひとりの好きなこと、得意なことを
活かしながら楽しく活動しています。



【委嘱式・定例委員会・その他活動報告】

【活動日】	【イベント名】	【参加人数】（委員人数）	【内容】
5/31（土）	委嘱式	14名（2名） /OBOG 3名	委嘱状の交付。
7/4（金）	運動タイム	13名（4名）	委員会企画として、プレイホールで3歩あてを実施。
7/26（土）	井荻っ子 夏祭り	（2名）	近隣の町会が主催の小学生を対象にしたお祭りのお手伝い。
8/1（金）	かき氷	3名（2名）	委員会企画として、かき氷をつくって食べるイベントを行う。
10/26（日）	第47回 ざりまるまつり	604名（5名）	ソースせんべい屋の出店。多くの小学生、乳幼児親子が来て大好評。
1/25（日）	第47回 もちつき大会	624名（6名）	凧あげブースの出店。たくさんの方が凧あげを楽しみ、もちつき大会を盛り上げた。
3/15（日）	小学生歓迎 イベント	予定	高学年を対象に、委員会の紹介や卓球、ボードゲームを行う。
3/26（木） ～27（金）	お泊りイベント	予定	プラザに1泊し、1年間の振り返りと次年度に向けて士気を高める。

定例会 計10回開催 延べ49名参加（2月13日現在）



7月 運動タイム

運動タイムでは「3歩あて」をしました。中学1年生が多く参加し、体を動かしました。部活が終わった後でも気軽に来られるように、閉館後の18時を開始の時間として企画を行いました。また、集合後はみんなで協力し、遊具を端に寄せて片付け、運動しやすくしました。みんな体を動かせ、一人一人が楽しめる時間になりました。

8月 かき氷

日程を決める時は、第三希望まで出し、職員と協力して素早く決めました。申込書を自分たちで作って参加者を募集しました。ポスターも作り、中高生ルームにも掲示をしました。当日は用具を洗う準備から始めました。皆で役割分担をして準備、かき氷作り、片付けまですべて参加者で行いました。とても楽しかったです！



10月 ざりまるまつり

ソースせんべい屋を出しました。味はチョコレート、いちごジャム、おこのみソースの3種類を出しました。当日は雨が降っていたため、お客さんが少なかったですが、呼びかけすると少しずつ増えていき、最後は長い列ができました。小学生だけでなく、プラザを利用している人も多く参加していました。人数が少なかったですが、地域の方も手伝ってくれてスムーズに接客をすることができました。

1月 おもちつき

私たちは凧あげのブースを行いました。たくさんの小学生や乳幼児親子の方が凧づくりに参加しました。特に大きなトラブルもなく、無事に最後まで終わることができました。小さい子どもから大人まで、多くの方の笑顔や、楽しんでいる姿を見ることができ、運営する側のやりがいを感じることができました。





児童青少年センター（ゆう杉並） 中・高校生運営委員会



ゆう杉並公式キャラクター
「すぎか」

児童青少年センター（ゆう杉並）は・・・

児童センター建設に向けて集まった中高生（中・高校生建設委員会）の意見から、平成9年にオープンした中学生・高校生優先の施設。

中・高校生運営委員会とは

建設委員会の思いを引継ぎ、ゆう杉並を「中・高校生にとって居心地のよい場所にすること」を目的に、利用者の代表としてゆう杉並の企画・運営に携わり活動中。



【メンバー構成】

中学生：3名

高校生：11名 計14名

委員長：古賀文夫

【年間目標】

『We create “Yuu”』

ゆう杉並の「ゆう」が持つ「融和」「遊び」「優しさ」「友情」になぞらえて、委員会と利用者がともにゆう杉並を作っていこうという思いを込めて、年間のスローガンとしました。

【委嘱式・定例委員会・その他活動報告】

【活動日】	【イベント名】	【参加人数】 （委員人数）	【内容】
6/7（土）	委嘱式	（14名）	児童青少年課長から委員に委嘱状が手渡された。
7/26（土）	委員会 Official 交流会	【16人】 （12名）	ゆう杉並の Official 活動に所属している中高生との関係作りのため、レクリエーションと食事作りを実施した。
8/22（金）	Teens square tokyo project ゆう杉並紹介・館内ツアー	（13名）	東京都が実施した中高生世代の国際交流で、ゆう杉並が見学会場に選ばれた。その際に中高生の活動の紹介や交流プログラム等を実施した。
9/14（日） 15（月）	秋合宿	（13名）	ゆう杉祭に向けた会議を合宿形式で実施した。ゆう杉祭へのイメージをふくらませ、テーマの設定や企画募集に向けた行動について確認をした。

【活動日】	【イベント名】	【参加人数】 （委員人数）	【内容】
10/5（日）	地域ふれあいデー 2025	【620名】 （4名）	ゆう杉並が地域向けに実施しているお祭りで、スーパーボールすくいのコーナーを担当した。
11/21（金）	自主企画 ウィンターアトリエ	【22名】 （6名）	館内の装飾作りを通してゆう杉並の利用者の交流を目指して実施した。多くの利用者と関わり、委員会の存在を周知する機会となった。
12/20（土） 21（日）	ゆう杉祭	【366名】 （8名）	委員会が中心となって行ったゆう杉並での文化祭。テーマを「15色のゆう合」としてゆう杉並の利用者同士の関わりを意識した。中高生による企画を2日間で14企画を実施した。

定例会 計21回開催 延べ197名（1月末現在）

他、地域のお祭りへ有志での参加・イベント作業日・学期末のお楽しみ会など実施

ゆう杉祭 12月20日・21日

テーマ「15色のゆう合」

ゆう杉祭の企画数と利用者を色に見立てて、たくさん色が溶け合い色鮮やかな思い出になるようなゆう杉祭にしたいという思いを込めました。

2日間で全14企画が実施され、のべ366名の中高生が参加し、色とりどりの企画がゆう杉祭を盛り上げました。多くの利用者に楽しんでもらうため、委員会もゲームやスポーツの企画を立ち上げました。フィナーレには多くの企画者や参加者が集まり、最後にはみんなで歌を歌ってゆう杉祭を締めくくりました。

当日は、企画者のフォロー、総合受付、写真撮影に加え、各企画にも積極的に参加しました。企画者や参加者が楽しむ姿を見て、主催という立場にやりがいを感じることができました。

ゆう杉祭
マスコットキャラクター
「いく郎」



20日（土）	21日（日）
カウントアップランキング戦(ダーツ)	Official演劇公演Rejoice
10色の音楽会	Dance Show
Official鉄の会 鉄子の部屋	YPT～ゆう杉ポーカートーナメント～
Let's 3mクライミング 2025	ゆう杉バレー2025
Volley ball challengers ! P2	バスケットボールカップ
ゆう☆スタジオライブ	Official Vocal live
ゆう杉のご様子(ラジオ生放送)	PALETTE OF SOUNDS(バンドライブ)

2 杉並区中・高校生委員会合同事業

活動報告

杉並区中・高校生委員会合同事業は4つの地域中・高校生委員会と中・高校生運営委員会が集まって交流しながら、一つのテーマについて1年間考える中で、より充実した委員会活動を目指しています。今年度は「私たちの考える中高生機能優先館」をテーマに取り組みました。

(1) 合同事業 第1部 準備・交流会

今年度の初顔合わせ。交流から始めて、話し合いに移りました。

実施日時 6月28日(土) 13時30分～16時45分

場 所 高井戸児童館



目 的

- ・レクリエーションにより委員同士の交流を深める。
- ・今年度のテーマを伝え、テーマに沿った取組み内容を検討する。

内 容

- (1) 概要説明、各委員会自己紹介、交流レクリエーション
- (2) 「施設・中身」「ルール」「広報」の3つのテーマに分かれて中・高校生が利用しやすい施設の意見交換
- (3) 合同事業第2部以降の会の持ち方について意見交換
- (4) 各テーマからの発表



参加者 合計29名
(委員17名・引率職員12名)

活動の様子

レクリエーション



【内訳】	中学生	高校生	計
堀ノ内東	2名		2名
善福寺	2名		2名
高井戸	8名		8名
四宮森	1名		1名
ゆう杉並		4名	4名
計	13名	4名	17名

4グループに分かれて積み上げタワーと伝言ジェスチャーゲームを行いました。積み上げタワーは各グループ、玉子型のカップをどこまで高く積めるか白熱！伝言ジェスチャーゲームでは決められたお題を身振り手振りで次の人に伝えていきました。レクリエーションを通じてお互い緊張がほぐれ、委員同士の中が深まりました。

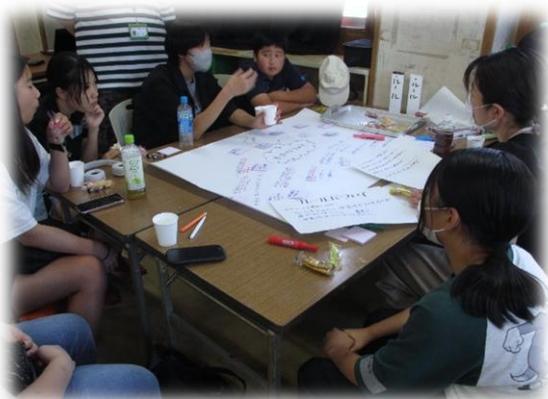
3つのテーマに分かれて意見交換(ワールドカフェ)



「設備・中身」・「ルール」・「広報」の3つのテーマを設定し、ワールドカフェ形式(※)でメンバーが入れ替わりながら意見交換を行いました。各テーブルにはお菓子や飲み物もあってカフェのようなフラットな雰囲気、お互い積極的に意見を出し合いました。他の人の意見を聞き、「あー、わかる」「この意見と同じ」など共感し合ったり、「自分の館ではこんなふうにやっているよ」など、自身の館の情報を伝えるなど、時間が経つにつれてより深く話をすることができました。また、休憩時間中も好きなゲームの話をしたり、自身の館で行っている自主企画の話をしたりして、交流を深めることができました。

関心のあるテーマを深める

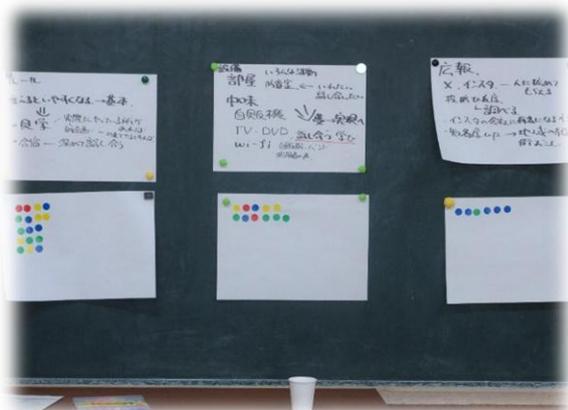
意見交換のあとは、3つのテーマの中から自身が最も関心のあるところへ行き、深めたい内容やどんな方法で取り組んでいくかを話し合いました。



※ワールドカフェとは

- ワールドカフェは、5人程度のグループでテーマに沿った話をするワークショップの手法です。
- 「限られた時間で、参加者の交流を深め価値観を広く深く共有すること」を目的としています。
- 一般的に10~20分程度でテーブルのメンバーを入替え、多くの参加者と情報共有と交流をします。

各テーマからの発表



テーマごとに考えた内容を、委員のみんなで発表しました。

「設備・中身」では、カラオケやシャワー室の設置、Wi-Fiは必須など、施設面で意見が出ました。

「ルール」では、開館時間の延長や体育室を中高生だけで使用するなどのアイデアが出ました。

「広報」では、インフルエンサーなど発信することが得意な人に教えてもらうなどのPRの強化について考えてくれました。

また、各テーマを深めるためにどのような取り組みをしたらよいかについても考えて発表してもらいました。そして最後にみんなで興味のあるテーマにシールによる投票を行った結果、施設面やルールにいてを中心に考えることに決めました。

その中で、施設見学を行うことで視野を広めるか、合宿で意見交換して練り上げていくという二つの意見に多くの票が集まりました。

参加者の感想から

- ・最初のレクリエーション一気に距離が縮まってよかったです。
- ・自分の興味のある分野について話し合えたのがよかったです。
- ・ワールドカフェを行うときに、お人形を回して話すのが面白かったです。
- ・児童館によって行っていることが違って、新鮮な意見をきけました。
- ・初めての人もいたけど、優しく接してもらったので嬉しかったです。
- ・レクリエーションでは班で協力できて楽しかったです。
- ・色々な児童館の人と話せて新鮮でした。新しい考えやアイデアを聞いてよかったです。
- ・人と案を出し合うのが面白かった。
- ・なにもかもが初めてで、わからないことだらけでしたが、他の中高生に教えてもらったりして、とても気が楽になりました。そして初めてだったけど楽しかったです。
- ・交流を深められたり、たくさんの人の意見をきくことができたのでよかったです。
- ・他の人の意見が参考になりました。
- ・人によって同じことを考えていたり違うことを考えていたりして面白かった。
- ・レクリエーションも楽しく、意見交換も勉強になりました。
- ・(意見交換のとき)人形を使っての話合いが面白かった。
- ・話すのが苦手なので、2部ではもう少し話せるようにしたいです。



(2) 第2部 施設見学会 ～児童青少年センター ゆう杉並～

施設見学か合宿か二つの取り組みを希望する意見がありましたが、全ての希望に答えることはスケジュール的にも難しいことから、今年度は新規の委員会メンバーが多いことを考慮し、中高生に特化した施設を見学することで、様々な比較ができるように促すことにしました。そのために、まず区内の中高生を主な対象とした児童館「ゆう杉並」の施設見学を行いました。日常利用している児童館や子ども・子育てプラザと比較することになりました。

実施日時

8月30日(土) 10時～16時

目的

区内にある中高生機能に特化した施設を実際に見学・利用することで、児童館との違いを感じてもらい、より広い視野で中高生機能優先館に対しての意見を出してもらおう。

内容

- (1) 交流レクリエーション
- (2) 施設見学
- (3) 昼食づくり
- (4) グループワーク



参加者

合計 31名

(委員20名・引率職員11名)

【内訳】	中学生	高校生	計
堀ノ内東	2名		2名
善福寺		3名	3名
高井戸	4名		4名
四宮森		1名	1名
ゆう杉並	2名	8名	10名
計	8名	12名	20名



活動の様子

時間	全体の流れ
9:50	集合 児童青少年センター
10:00	開始 あいさつ
10:10	レクリエーション
10:25	流れ説明
11:00	施設見学開始
11:30	施設利用体験
12:15	昼食づくり・昼食
14:00	グループワーク ① 感想共有 ② ゆう杉並の良い点 ③ ゆう杉並にほしい機能 ④ それを踏まえた中高生機能優先館の機能 について話し合う
15:15	グループ同士の意見共有
15:35	今後の流れ・感想
16:00	解散

施設見学の様子



まず、ゆう杉並の中・高校生運営委員に施設の紹介をしてもらいました。その後、気になった設備を実際に利用しました。

昼食作り

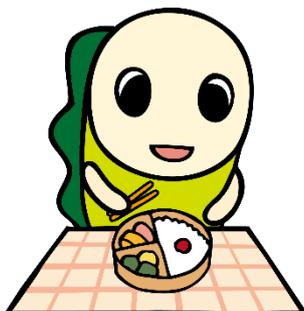


グループワークの様子



グループワークではふせんと模造紙を使用して話し合いを行いました。まず一人ひとりが自分の考えを書いて張り出し、みんなのアイデアが見える形にしました。こうすることで、いろんな意見を比べながら話し合うことができました。

その後グループワークで考えた内容を、グループ毎に発表しました。その内容は学習や調理のスペースがある・ネットで利用状況がわかる・スタッフについてなど第1部の時よりもイメージが深まっていました。自分のグループでの話し合いに加え、他のグループの報告を共有することで、それぞれのイメージをさらに膨らませることができました。



参加者の感想から

<全体を通して>

- 同じく委員会として活動している中高生の顔が見られてうれしかった
- 意見交換では、自分にはなかった素敵な意見がたくさん出た。視野が広がった。
- 異なる施設を利用する人たちと、様々な意見を交換できた。
- 意見交換では自分たちと違う環境で過ごしている人たちが考えていることを知れて面白かった。
- 一つの館を参考にして、それをいろいろな館が参考にして変わることもよいが、元の館の個性がなくなってしまうか心配。
- 施設すべてに人の気持ちがつまっているように見えた。

<第3部の施設見学でこんな所を見たい、聞いてみたいなどありますか？>

- 委員会のような団体があるか→どのような活動をしているのか、仕組みは？
- どのようなイベントが行われているか。その中に中高生が主体となって催されるものはあるか。主に誰が企画しているのか。
- 中高生中心の施設にするための工夫。
- 施設での備品などのお金の流れ、地域との関係性。
- 施設の大きさと利用時間について。
- どのくらいの人が来館しているのか。
- 駅からどのくらいの距離なのか。



(3) 第3部 施設見学会 ～港区赤坂子ども中高生プラザ なんで～も～

中高生を主な対象としているゆう杉並の見学で、中高生機能優先館のイメージをつかむことができました。今度は他自治体の児童館で中高生対応に重点を置いている施設の見学を行いました。それは、乳幼児親子から中高生まで幅広く利用している児童館で中高生が使いやすい児童館のイメージを具体的にしてもらいたいと考えたからです。そこで、「港区赤坂子ども中高生プラザなんで～も」のみな様にご協力いただき、2度目の施設見学を行いました。

実施日時

11月15日(土) 16時～18時30分

目的

中高生機能優先館についての検討にあたり、他自治体の取り組みを見学し、今後の参考にする。

内容

- (1) 施設見学
- (2) NANCAFE(なんカフェ)参加
※なんで～も利用者への聞き取り
- (3) 中高生タイム参加



参加者

参加者数 26名

(委員17名・引率職員9名)



【内訳】	中学生	高校生	計
堀ノ内東	1名		1名
善福寺	3名	3名	6名
高井戸	2名		2名
四宮森	1名	1名	2名
ゆう杉並	1名	5名	6名
計	8名	9名	17名

施設概要 港区赤坂子ども中高生プラザ なんで～も

- ・開館時間 9:30～20:00
- ・乳幼児親子向けのキッズルームや学童クラブも併設するなど、杉並区の児童館と同じ利用状況
- ・18:00以降は中高生優先タイムとして利用
- ・乳幼児向け、小学生向け、中高生向けにそれぞれのイベントを実施

⇒中高生機能優先館に近いイメージの施設

活動の様子

時間	全体の流れ
15:50	集合 赤坂子ども中高生プラザ
16:00	開始 あいさつ
16:20	施設見学
16:40	施設利用
17:10	なんカフェ参加 利用者との意見交換、職員への質問
17:55	写真撮影・感想
18:00	中高生タイム参加
18:30	解散



施設見学の様子

なんで～もの職員の方から館内の説明を受けた後、それぞれが施設の気になる部屋を実際に利用させていただきました。自分たちの児童館にない設備やルール等に関心をもって見学をしました。



NANCAFE(なんカフェ)参加の様子

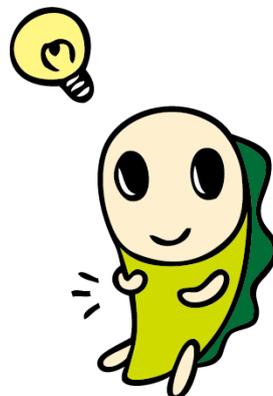
なんで～ものみな様のご協力により、「NANCAFE(なんカフェ)」という、なんで～ものスタッフの方々と施設利用の中高生が意見交換する時間とタイアップして、施設を実際に利用している中高生と懇談する機会をいただきました。お菓子を食べながらインタビュー形式でなんで～もの魅力について深掘りしていきました。



こんな質問をしました！（抜粋）

なんで～もを利用している中高生へ

- ・利用の目的は何ですか？
- ・どういうところが楽しいですか？なんで～もの魅力を教えてください！
- ・どんな関係の人と来館していますか
- ・いつもどこ（部屋）で遊んでいますか？ それは何故？ その魅力は何？
- ・便利だと思うものや工夫しているものについて教えてください！
- ・なんで～もで、他にもあったらいいなと思うものがありますか？



なんで～もの職員の方へ

- ・職員の方が利用者と話すときに心がけていることはありますか？
- ・中高生が運営にどれくらい参加していますか？
- ・キッズルーム(乳幼児室)がありますが、小中高生と赤ちゃんとが一緒にいる事での課題や、逆に利点はありますか？
- ・スクールカウンセラーや SNS で悩み相談など、相談できる環境はありますか？
- ・部屋の予約利用はできますか？
- ・食べ物の自動販売機や売店など、館内で飲食を購入することはできますか？
- ・モバイルバッテリーや Wi-Fi など、スマホ関係の貸し出しのものはありますか？
- ・年代別向けの設備、工夫はどのようなものがありますか？

事前になんで～ものことについて各委員会で情報を確認し、聞きたいこと、知りたいことをまとめて当日にのぞみました。
なんカフェ参加中や中高生タイムは、これらの質問をもとにしながら利用者・職員の方と話をすることができました。

参加者の感想から

<全体を通して>

- ・色々なことができ交流もかなりできると思いました！また来たいと思える場所でとても良かったです。
- ・利用者の方々がフレンドリーでとても学びのある時間でした。
- ・善福寺プラザとは全く違う広さ、できること、利用者数が見られてどのようにすれば、プラザでも利用者が増えるのか考える刺激となった
- ・他の児童館の人や、利用者の人との意見交換ができ、今後の活動に活かせると思った。とても充実した施設だったので参考にしていきたい。
- ・麻雀とか、カラオケとか、ゲームもあって、ゆう杉の上位互換のような感じだった”

- ・施設がとても広く利用者さんたちも満足しているようでとてもいい時間を過ごせた。
- ・部屋の数がとても多くて驚きました。小中高生の棲み分けもしっかりしていて、接触の危険などはなさそうだと感じました。
- ・滑り台やピリヤードなどユニークなものがありました。
- ・中高生タイムで中高生が優先の時間があるのもよかったです。

<自分たちの施設に取り入れられそうなこと>

- ・プラザならではの幼児がいるので、そこももっと交流できるように、もっとフリーダムな環境を提案できたらいいと思いました。
- ・時間で、中高生、小学生、幼児の利用を分ける
- ・ゲームの使用時間やご利用方法安定した設備を自分たちの施設に取り入れたいと思います。
- ・イベントを増やしたいなと思った。
- ・トランポリンやサッカーゴール〔折りたたみ式〕が取り入れられそうです。
- ・ルールをきちんと作る。



第4部・第5部に向けて

こうして、第1部～第3部までの取り組みが終わりました。ここまでは、中・高校生運営委員会も含め、5つの委員会みんなで集まって一緒に活動してきましたが、この後は、4つの地域・中高校生委員会それぞれ今年のテーマ「私たちの考える中高生機能優先館」に沿ってそれぞれの活動する施設が中高生機能優先館になったらどんな施設になって欲しいかについて、委員会毎に検討を進めることとなります。

(4) 第4部 児童青少年課長との懇談

2月の活動報告会に向け、意見をまとめる過程を中間発表という形で児童青少年課長へ報告し、課長はじめ集まった委員からの質疑応答や課長からのアドバイスをいただき、自分たちの考えをブラッシュアップさせる機会を設定しました。

実施日時

12月26日(金) 14時～17時20分

場 所

児童青少年センターゆう杉並

目 的

第1部～第3部までの取り組みをもとに、各委員会が検討している内容について発表し、より良い発表を目指す。



内 容

- (1) 児童青少年課長への現段階の検討内容の発表
- (2) 委員同士の交流会

参加者

合計 32名

(委員 20名 引率職員12名)



【内訳】	中学生	高校生	計
高井戸	1名	0名	1名
堀ノ内東	4名	3名	7名
善福寺	2名	1名	3名
四宮森	0名	1名	1名
ゆう杉並	3名	6名	9名
計	9名	11名	20名



発表の様子

第3部の施設見学からわずか1か月。短い時間でしたが、各委員会で考えたことは重なる部分もありましたが、着目したポイントは施設環境や利用状況の違いからそれぞれ異なることでした。有吉課長から、良かった部分についてお話しいただくとともに、活動報告会では、各施設の状況を知らない方に発

表するためには、写真などを活用してわかりやすくプレゼンした方が良いなど具体的なアドバイスもいただきました。また、発表を聞いていた他の委員会メンバーからもいろいろな視点から質問がありました。活動報告会に向け、自分たちだけでは気づかない点もあり、有意義だったのではないかと思います。

課長からの講評

子どもの居場所づくり基本方針の中で、中高生機能優先館を今後区内に7か所つくることになっています。この間、多くの人にアンケートやワークショップで意見を聞いてきました。家や学校以外に居場所がない人が一定数いました。区内の中学生・高校生はそれぞれ約23000人。ゆう杉並の来館は一日平均で150人くらいですが、それは中高生全体の0.5%に満たないとも言えます。これから作っていく中高生機能優先館をより中高生にとっての居場所となるものにしていきましょう。また、区の集会室等でも勉強利用などで、Wi-Fiやコンセントが使えるようになりました。HPから確認してみてください。今回出た意見を踏まえてより良い発表に向けて準備を頑張ってください。



交流会の様子

課長への報告の後は年末の忘年会も兼ねた交流会を行いました。お菓子を食べながら「得意なこと」や「推し」についての話をしたり、ゲームをしました。今回で4回目ということもあり、自然と会話が弾んでいました。

感想（抜粋）

○「第4部児童青少年課長への報告」感想

- 普段できない発表ができたので良い経験ができた。
- みんなからの質問や発表を聞いてみてより具体的に考え学ぶことができました。



○他の委員会の発表や質疑応答から参考になった点

- 緊張したけれど、質問への受け答えもしっかりでき、次回に向けての改善も考えることができる機会になったので良かったです。
- 質疑応答の際に面白い視点を突いていて、聞いていて共感するところがたくさんありました。課長から、現在の杉並区の状況を教えていただいたこともとても良かったです。
- 1人の発表だったけど、とても楽しかった。
- いろんな考え方を知ることができてとても楽しかったです。
- 他の館の話を聞いて自分の所属している館について改めて考えられた。

○次回に向けての改善点

- 少しアバウトになっている部分について詰めていくことが大切だと思いました。
- 写真をいれたり区切ることで、より内容を分かりやすいようにしたい。

(5) 第5部 活動報告会

いよいよ、区長をお招きしての活動報告会となりました。これまでの合同事業の取り組みを中心に、各委員会の活動について発表しました。※各委員会の発表の内容は27ページ以降をご確認ください

実施日時

2月7日（土）14時～17時20分

場 所

児童青少年センターゆう杉並

目 的

- ・ゆう杉並中・高校生運営委員会と各地域中・高生委員会の取り組みについて報告し、学校・地域関係者などに活動を知ってもらう機会とする。
- ・活動報告会とその準備を通して、委員自身が1年間の活動を振り返る機会とする。

内 容

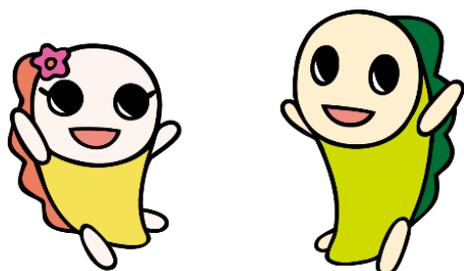
- 1 各委員会の活動を、区長、子ども家庭部長、児童青少年課長、児童館運営係長、青少年委員等関係各所へ報告する
- 2 委員同士の交流会



参加者

合計 54名

〔 委員20名・来賓16名・引率職員10名 〕
 児童青少年課職員 8名
 ※来賓にオンライン参加の13名を含む



【内訳】	中学生	高校生	計
堀ノ内東	2名	0名	2名
善福寺	2名	2名	4名
高井戸	3名	0名	3名
四宮森	1名	1名	2名
ゆう杉並	2名	7名	9名
計	10名	10名	20名

報告会の様子

活動報告会では、これまでの合同事業についての取り組みと各委員会の活動内容について、委員自身が発表し、自分たちの考えを伝えるとともに今年度の取り組みのまとめを行いました。緊張しながらも、それぞれの伝えたいことを分かりやすく報告することができ、多くの方々に活動について知ってもらえる機会に繋がりました。



交流レクリエーション

報告会終了後、緊張も和らぎホッとした委員たちは、「なんでもバスケット」と「はあって言うゲーム」で盛り上がり、短い時間でしたが、楽しく交流しながら今年度の合同事業を終えることができました。職員も無事に終えることができホッといたしました。



ご出席頂いた方のコメントの紹介

岸本区長より

昨年この場に来てみんなの発表を聞きましたが、今日4つの中高生機能優先館のプレゼンを聞き、改めて杉並区の中・高校生委員会の歴史と実績はかけがえのないものだと感じました。みんなの活動の先に使いやすい中高生優先館ができていくと思います。今回、中高生機能優先館として上荻児童館を指定することにしました。また、時間はかかるかもしれないけれども、児童館そのものも増やしていきたいというのが今の杉並区の考えです。

大きな提案から小さな提案まで様々な提案がありました。小さな提案はそれぞれの児童館に合ったものだと思うので、各児童館の裁量で決めていいのではないかと思います。今後、児童館の職員と中・高校生委員会と一緒にルール作りを進めるなど、背負える範囲の責任をもちながら運営して行って欲しいです。そして、児童館という場にみんなが関わっていくことによって成長していく、拠点になっていくのではないかと発表を聞いて強く思いました。

どのような形になるかは、まだまだこれからのチャレンジですが、今日の発表を受けて、一緒に進んでいきたいと思います。そして、杉並区の若者支援の政策、若者参画の政策というのは、「中・高校生委員会から始まるんだ！」という勇気をいただきました。これからも一緒に頑張っていきましょう！



松沢子ども家庭部長より

現在、杉並区においての中・高校生機能優先児童館としては、各地域に7箇所作る予定であり、どんな機能を中心に盛り込んでいくかを決めていこうとしています。区職員の意見だけではなく、実際に使う中高生の話を聞いていこうということで、中・高校生ワークショップを行いました。私たちとしては、実際に使う利用者の視点で、「こういう機能が欲しい」という意見を受け止め、中・高校生機能優先児童館に必要な部分を考えていきたいと思っています。今日の意見も踏まえ、今後新たな形が見えてくる段階になったら、みんなにも提示したいと思っています。

意見箱を作るという話もありましたが、杉並区でも子どもの権利条例を作り、子どもの意見を聞く機会をたくさん設け皆さんの意見をどのように反映したかということ、なるべく分かりやすく伝えるようにしていきたいと考えています。

ゆう杉並の中高生の建設委員会を立ち上げた当時の委員が、杉並区の職員になって一緒に私と働いている人がいます。みんなが将来区の職員になって地域で子どもに携わる部署に行ったり、NPOのスタッフなどとして子どもの意見を聞く立場になったりすることもあるかもしれません。引き続きいろいろな形で参画をしていただければと思います。みんなから本当に素晴らしい発表をありがとうございました。



※ご来場いただいた来賓をはじめとする皆さまからもあたたかいお言葉をいただきました。

来賓の方々にご記入いただいたアンケートの紹介

- ・中高生機能優先館の提案は、自分達のことだけではなく、利用の中心となる幼児や児童のことをしっかりと考えていたところに感動しました。ぜひ、提案が実現されることを期待しています。
- ・それぞれの委員会が、地域に根ざした活動を行っていて、とても頼もしく思います。
- ・各委員会からの中高生機能優先館の提案は、本校改築で併設する多世代交流施設「コミュニティふらっと」の計画にとっても参考になるものでした。

委員の感想から

○第5部活動報告会についての感想

- ・課長の前で話すことは委員会の活動以外にないので、いい経験になったと感じました。中1から高2までの中高生がいて学びにつながるが多かったです。
- ・プレゼンをする機会や、他の委員会との交流の場ができて貴重な経験になりました。特に区長や部長のお話を聞くことができたのがとても為になりました。
- ・それぞれの児童館が特色を持って発表することができて、良かったと思った。また、レクリエーションでは中高生と仲を深めることができて、来年度も参加する中高生委員にとっては良い機会になったと思いました。
- ・区長にしっかり自分たちの意見を届けられていたので良かったと思います。各施設で前回のものよりも良いプレゼンになっていたのが良かったと思います。なんでもバスケットも、はあっていうゲームも楽しくできたので良かったです。



○今年度の合同事業全体を通して思ったこと、印象に残ったこと等

- ・自分にとっては委員会ですら初めての経験で、わからないことも沢山ありましたが、継続メンバーに教えてもらったり説明を聞いたりして色々なことを学びました。
- ・いろいろなところの運営委員の方から様々な事を言っていてとても貴重な体験になりました。
- ・合同事業をすることはとても良い事だと思った。他のところと交流することで、よりよくするために考えたり、様々な力をつけたりすることができると思った。

○次年度の合同事業でやってみたいことや期待すること

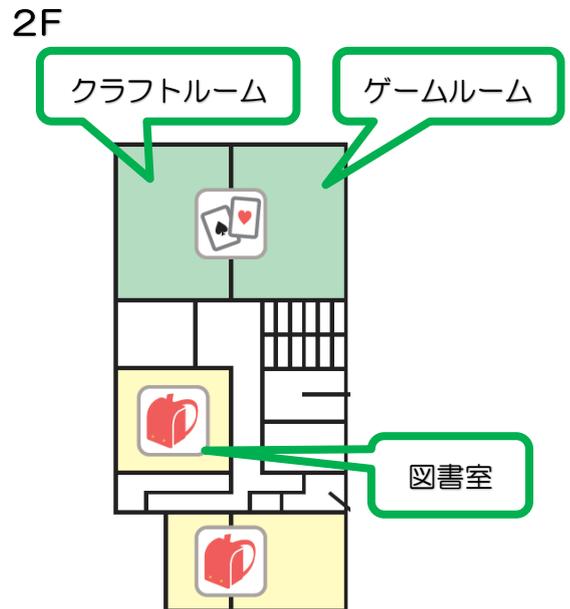
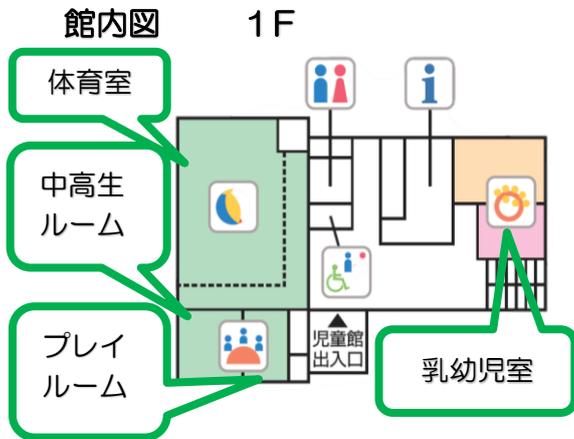
- ・みんなでご飯食えることで仲も深まったので、来年度も実施してほしいです。
- ・何か新たに生み出せることをやると良いと思います。
- ・もっと中高生の居場所についてみんなで明確にしていけると良いなと思う。
- ・次年度の合同事業ではもっと交流する機会を設けてみてほしいです！

高井戸児童館が中高生機能優先館になるとしたら

【発表：高井戸児童館地域中・高校生委員会】

高井戸児童館が中高生機能優先館となった場合を想定し、現在の施設配置や利用実態を踏まえて、中高生がより使いやすい環境づくりを検討しました。

【①高井戸児童館の現状】



○部屋の特徴 1階

体育室



- 広くて天井も高く、バスケットゴールもあります。
- 防球ネットで仕切って半面ずつ遊びができます。
- 午前は乳幼児、午後は小学生以上が利用できます。

中高生ルーム



- 談話やゲーム等ができる中高生専用の部屋です。

☆ 中高生タイム
毎週水曜日 17:30~18:30 は中高生が体育室・中高生ルームを占有&延長利用ができます。

プレイルーム



- イベント実施時などの部屋です。
- 乳幼児親子の昼食利用やサンカードの日に使用しています。

乳幼児室



- 終日乳幼児親子専用のお部屋です。
- ぱおのスタッフが火~金まで常駐しています

2階

クラフトルーム



- お絵描きや工作、折り紙などを楽しめるスペースとレゴやプラレール、人形でままごとなどを楽しめるスペースに分かれた部屋です。

ゲームルーム



- ボードゲームやカードゲームなどを楽しめる部屋。
- 持ち込みのゲーム機器なども使用できます。

図書室



- 静かに落ち着いて読書や学習ができる部屋です。



【②私たちの考える中高生機能優先館とは】

高井戸児童館が中高生機能優先館になるとしたら何が重要なのかを委員で議論し、4点にまとめました。

＜開館時間の延長＞

私たち中高生は日々、塾や部活動など放課後に来たくても多くの時間は遊べず、1時間もいられずに閉館時間になってしまうことも多いです。また、遊べても小学生と一緒にだと本気を出せず、消化不良で終わることもあります。そこで、開館時間を体育室と中高生ルームのみ**中高生限定で平日19:30**まで開館にして、部活や塾終わりに遊びに来やすい環境を整え、中高生だけで思いっきり遊べるようにします。

＜SNSを活用したPR＞

児童館ではPRをする際にお便りの発行やポスター掲示などを行っています。しかし、私たちが多く見る媒体はSNSです。そこで中高生向け情報などにX (旧 Twitter) や Instagram などを活用し、多くの人の目に触れる情報発信を行います。

＜中高生が意見できる施設運営＞

今も委員会活動や利用者アンケートなどで意見はできますが、もっと気軽に、広く意見を募れるようにしたいと考えました。そして、中高生機能優先館を作るだけでなく、その後さらに発展させていくことも重要です。そこで3つのやり方を提案します。

- 1：月に1回、中高生と職員が新しいイベントや遊具についてなどを考える会議を行うこと。
- 2：会議には参加できないけど意見を出したい人には目安箱を設置し、広く自由な意見を出せるようにすること。
- 3：1・2についての内容を簡単に要約して中高生ルームに掲示することで、自分の意見がどのようになったのかを見られるようにすること。

これらを行うことで、常に新しく・楽しく・遊びに来たくなるような施設運営ができるのではないかと思います。

＜児童館に併設されている、使われていないスペースの活用＞

中高生のスペースを乳幼児、小学生の利用と両立したうえで増やそうと思うと今の児童館のままでは難しいです。そこで、児童館の隣にある旧定期利用保育施設高井戸北（以降【定期利用】と略します。）を活用して、さらに利用しやすい施設にします。

以上のことを踏まえて**中高生機能優先館を高井戸児童館に**落とし込んでみました！

前述した4点をベースに、高井戸児童館をどのように変えていくのかについて、2パターンに分けて考えました。

○併設の定期利用を別館として活用することで、より広い空間を中高生のスペースとして利用できる

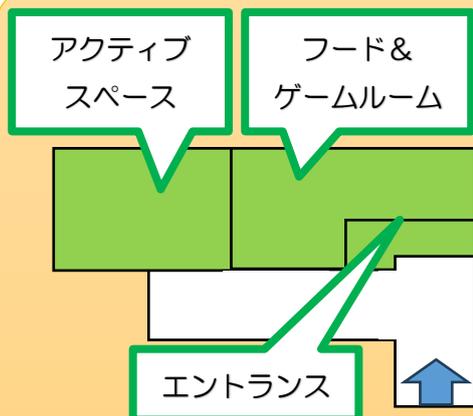
「定期利用活用案」

○現行の児童館スペースはそのまま、機能を変更する

「現行の児童館活用案」



【③-1 定期利用活用案】



＜児童館(別館)※定期利用スペース＞

別館は中高生専用の場所として利用します。利用方法は別館用の登録カードを作成してもらい、受付にてカードを預けることで入館できるようにします。これにより、入退館の管理をやすくするとともに、カード作成時に利用方法の確認をできるようにします。

フード&ゲームルーム

- ・お湯を使った調理や飲食が気軽にできるスペースが欲しいという利用者が多いことから、電気ポットを設置しカップ麺やスープなどを調理できて、そのまま飲食ができる場所を作ります。
- ・手前はゲームコーナーにして、カードゲーム用のマットを貸し出しできるようにして、気軽に楽しめる環境を整えました。

アクティブスペース

- ・卓球や姿勢鏡を使えるようにして、卓球やダンスの利用、他にも筋トレ器具やダーツができる部屋として活用します。この部屋はエントランスにて1時間交代制で使えるようにし、多くの人が気軽に利用できるようにします。

エントランス

- ・入退館、部屋の利用の管理をする場所です。ここでアクティブスペースの予約などを行います。



＜児童館(本館) 1階＞

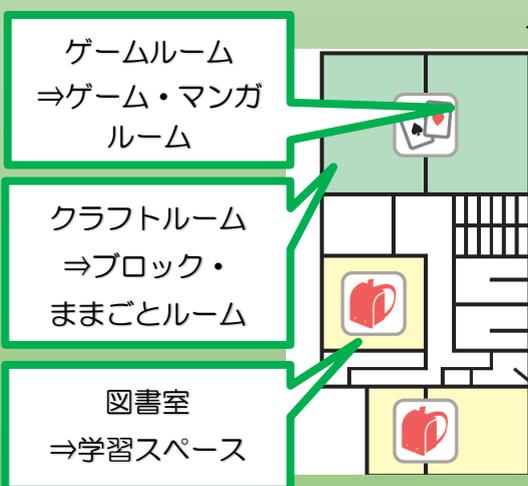
○体育室

- ・新たに天井ネットを設置し、安全に仕切れるようにします。
- ・利用時間を以下の通りにします。
開館 ~ 小学生の下校前：乳幼児親子
下校 ~ 17:45 : 小学生優先
17:45~19:30 : 中高生専用
これにより利用者が安全に使用できる環境を整えます。

○クラフトルーム(現プレイルーム)

- ・2階クラフトルームから「工作」についての機能を移転します。もともと利用の多い遊びのため、広くのびのびと使えるようになります。

※中高生ルーム・乳幼児室は現状と変更はありません。



＜児童館本館2階＞

○ブロック・ままごとルーム(現クラフトルーム)

- ・1階に「工作」の機能を移転したため、残った機能をそのまま広く使えるようにしました。

○学習スペース(現図書室)

- ・マンガの機能をゲームルームに移し、静かに学習できる部屋にします。

○ゲーム・マンガルーム(現ゲームルーム)

- ・ゲームルームに漫画を移転しました。

＜定期利用活用案のメリット・デメリット＞

メリット

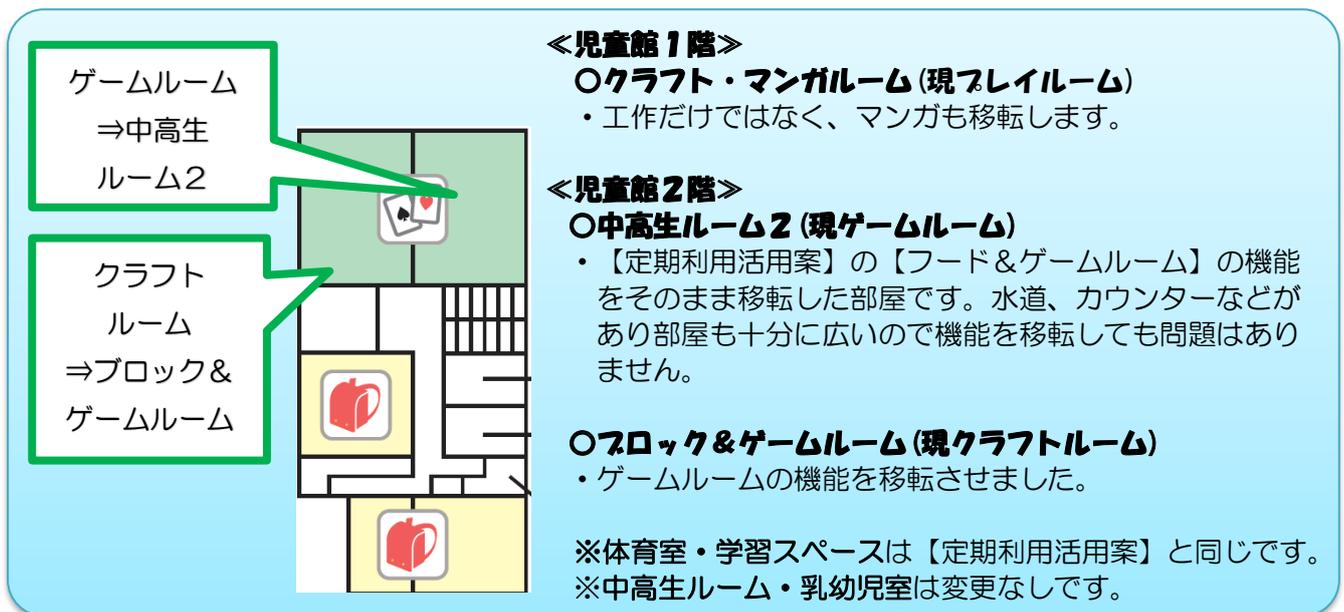
- ・今より広い空間を使えるため、より多くの小学生・中高生が利用しやすい環境を作りやすい。
- ・定期利用の【アクティブスペース】はこれまでの高井戸児童館にはない機能で、現状その機能を置くこともできないので、新たに幅広い利用者層の開拓ができます。

デメリット

- ・部屋数が増える関係で、定期利用に配置する職員が増えるため、日によっては職員が足りない日が出る可能性があることです。

【③-2 現行の児童館変更案】

この案では、部屋の機能を移転・変更して中高生の居場所を作る案です。変更点をお伝えします。



＜現行の児童館変更案のメリット・デメリット＞

メリット

- ・高井戸児童館はもともと部屋数があるので、各部屋の機能を少し移すだけで中高生ルームと学習スペースを増やすことが可能である点です。遊びの機能や職員配置も変わることなく、部屋を増やすことができるのはとても魅力的だと思います。

デメリット

- ・【定期利用活用案】に比べて中高生のスペースを確保できないことです。

＜おわりに…＞

・高井戸児童館が中高生機能優先館の対象になる時が来たら、是非この案を取り入れていただければ幸いです。ご覧いただきありがとうございました。

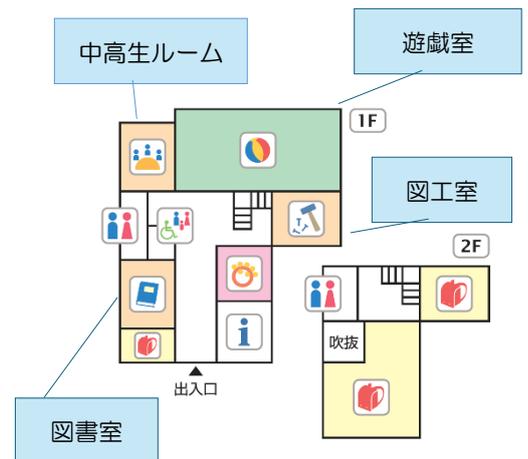
もし四宮森児童館が中高生機能優先館になったら

【発表：四宮森児童館地域中・高生委員】

1. 四宮森児童館の利用状況・使用できる部屋

利用状況としては、現在小学生の利用者が一番多く、中高生の割合としては1割程度しか児童館を利用していないという現状があります。

現在の四宮森児童館にある部屋の中で中高生が利用することができる部屋は、この施設のレイアウトの中で、中高生ルーム、遊戯室、図書室、図工室の四つしかありません。施設が主に小学生対象であるが故、中高生が実際に使っている部屋は中高生ルームと遊戯室の二部屋になっています。小学生と中高生が共存できるメリットもありますが、中高生優先の部分で考えると、住み分けは大切になっていくと考えています。実現が難しい要望にはなりますが、部屋数の増加、時間延長が叶えば中高生の居場所としてより利用しやすくなるため、中高生機能優先館に求める要素の一つだと考えます。



2. 四宮森児童館ですぐに取り組めること

【中高生にとって居心地の良い空間】

まず四宮森児童館ですぐに取り組めて、実現できることとして、中高生ルームを居心地の良い空間にするというテーマで考えました。四宮森児童館には中高生が優先的に使うことができる、中高生ルームがあります。この部屋では、ゲームや勉強、漫画、ピアノなど、様々なことができる部屋となっています。ただ、この部屋は小学6年生も現在使用できる部屋になっており、中高生とともに共有して使うスペースになっています。

そのような中で、小学生とも共有しつつ、中高生が居やすいと思える環境、そして中高生のニーズにあった環境を実現するために、「中高生にとって居心地の良い空間」をテーマに考えました。



【くつろぎスペースの設置】

私たちは、1つの案として中高生ルームに『くつろぎスペース』を設置し、居心地の良い空間を確保することを考えました。具体的な案としては、マットかござをひき、中高生がのんびりゲームや談笑をしたり、漫画を読んだり、落ち着いた空間の場を設けるという内容です。

【現在の中高生ルーム】

現在の中高生ルームは机のみしか置かれておらず、ゆったりできるようなスペースはありません。また、現在ほとんど利用されていない電子ドラムが場所を占領してしまい、スペースが狭くなっています。そのため、居心地の良い空間を確保するために、以下の3点を改善案として考えました。

【変更後の中高生ルーム】

1点目

部屋の半分にはマット or ござをひき、くつろぎスペースを作る

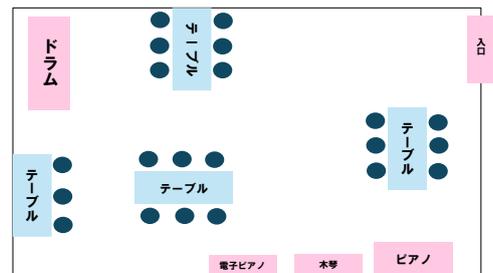
2点目

くつろいでゆったりと漫画が見られるように、漫画を置く場所を変える→マット側にする

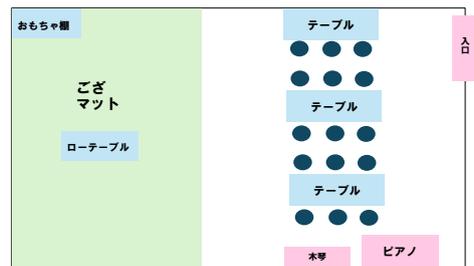
3点目

くつろぎの空間だけでなくもう半分には机を置き、今までのようにボードゲームや勉強ができるスペースを確保する

Before



After



【くつろぎスペースでのルール】

しかし、現状ではお菓子のごみが残っていたり、大きい音が長時間響いたりすることがあります。こうしたことは特に利用している小学6年生に多く見られています。そのため、このような行為が少しでも減らしていけるように、ルールを設けることが必要だと考えました。

『くつろぎスペース』のルールとして、以下の五つを原則として考えています。

- 1、マット(ござ)の上では飲食禁止、飲食をしたい場合はマットからでてテーブルのところなどで食べる
- 2、中履きをはいている子はマット前で靴を脱ぐ
- 3、ボードゲーム等は入口側のテーブルを利用し、マット上ではローテーブルの上でも行わない
- 4、激しい運動は控える
- 5、占領せずに譲り合って使用し、荷物を置きたいときはカゴに入れて場所を取らないようにする

このようなルールを設定することで、小学生・中高生が共に居心地の良い空間を共有できるようになるのではないかと考えます。

3. 中高生機能優先館に必要だと考える変更案

もし実現出来たら中高生にとってよりいっそう利用しやすい居場所となり、中高生機能優先館に必要だと考える変更案を、4点を提示します。

①利用時間延長について

まず1点目として小学生と中高生の住み分けにおいて必要な変更として考えられる、時間延長についてです。

改めて、現在の四宮森児童館（その他の児童館も言えることですが）利用者の対象は小学生がメインとなっているため、中高生がのびのびと利用できる場所、時間がとても限られている状態です。住み分けを行うことで、小学生も中高生もそれぞれが気持ちよく、のびのびとできる空間を生み出すことができ、それぞれの居場所を確立させられるようになります。そのために時間延長というものがキーポイントになると考えています。

【メリット・デメリット】

時間延長を行うことで、学生生活において重要な勉強・運動どちらも適した環境が整っているということがメリットとして挙げられます。部活終わりや塾前の時間によることができ、中高生にとって身近なものだと感じることができ、利用しやすい場所となると考えます。

デメリットとしては、職員の勤務体制を大幅に変更しなければならないということです。この点に関しては、利用時間の延長を実施するにあたって必要不可欠な点であるため考えていただければと思います。

メリット

部活終わり・塾前の時間も
利用できるようになる

デメリット

職員の勤務体制の見直し

【昨年度の結果】

実際に昨年度、四宮森児童館では時間延長を二日ほどお試しで実施しました。その結果、いつも利用をしていなかった中学生が来たり、時間延長されたことで遅い時間からでも遊びに来られたりと、利用しやすい環境が生まれました。また、人数も普段の平均利用者よりも5、6人程度増加しにぎわいました。

このことから、時間延長がされ、中高生だけの時間が確保されることで、住み分けがうまくされるようになり、中高生機能優先館に必要な要素となると考えます。具体的な時間帯としては、難しいところではありますが、以前施設見学で行ったプラザ赤坂なんで～もさんを参考に20時くらいまでの延長を考えても良いのではないかと考えています。

②Wi-Fiについて

続いて2点目はWi-Fiの設置になります。前回の課長懇談会の際にも出ていたと思いますが改めて、Wi-Fiの設置には積極的に視野に入れていただきたいと考えています。

中高生が気軽に勉強できるような場所は現在数少なく、ほとんどがお金をかけなければいけないような場所ばかりです。Wi-Fiがある場所で勉強できる環境が自宅の近くで、更には安全性のある場所で行えることは中高生にとって「居場所」となり、より中高生のニーズに答えることができると考えています。

③机と椅子の新調について

3点目は中高生ルームの机・椅子の新調についてです。現在中高生ルームには机4台、椅子21脚がある状況です。しかし中高生は小学生よりも一回り大きい体のため、使いにくさを感じています。そのため中高生がより使いやすいように、机や椅子を新調させ、中高生の体にあったものにし、環境を整えることが必要だと考えています。



④コインロッカーの設置について

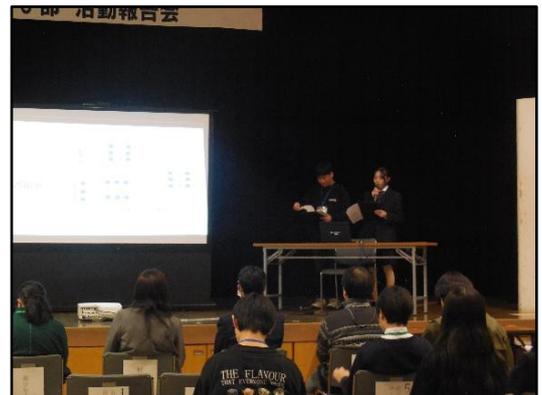
最後に4点目は、コインロッカーの設置です。遊戯室で遊ぶときや外出した際に、荷物や貴重品を置いたままになります。児童館は安全性が高いため大半は大丈夫だと思えますが、失くしてしまったり、万が一盗まれてしまったりということが起こってしまうと危険なので、コインロッカーを設けることで安全性をより強化させることができると考えています。

4.おわりに

これらが導入されることで、よりよい環境をつくり中高生のニーズにより答えることができ、そこから利用者の増加を促すことができると考えられます。

最後になりますが、その他の変更案の内容で実現が難しいものもあると思います。

ですが中高生が利用しやすい場所を目指していくうえで積極的に取り入れて頂きたいと考えています。



今の私たちにつかやすい、使い続けたい中・高校生機能優先館の提案 ～堀ノ内東児童館の場合～

【発表：堀ノ内東児童館地域中・高校生委員会】

<はじめに>

この報告は、堀ノ内東児童館が、「中・高校生機能優先館」になった場合の提案をまとめたものです。

今回、報告書の作成にあたり、私たちは、来館する中高生に「中・高校生が利用しやすい施設にするためにはどうしたらよいか。」意見を聞きました。そこから4つの課題が見えてきました。

この4つの課題を「ソフト面」「ハード面」「広報」に分類わけし、今の堀ノ内東児童館が中・高校生機能優先館になった際のイメージを、改善策を含め提案します。



<中・高校生からみた現在の課題>

まず、現在の児童館について、中・高校生の立場から感じている課題を整理しました。

【ソフト面の課題】

- 児童館は小学生が中心の場所という印象が強く、中・高校生は意見を言う機会が少ないと感じている。
- 閉館時間が早いため、中・高校生の生活に合わず、利用の機会が減り、「特に意見はない」と思ってしまう状況がある。

【ハード面の課題】

- 中・高校生だけで落ち着いて過ごせる部屋がない。
- 遊戯室は小学生の利用が多く、天井も低いため、思いきり体を動かすにくい。

【広報の課題】

- 児童館で何をしているのかが分かりにくく、中・高校生には情報が見えづらい。

<中・高校生機能優先館になったら、こう変わります！【課題に対する改善案】>

次に、中・高校生機能優先館になった際のイメージを、これらの課題を解決するための具体的な改善案を含め、提案します。

【ソフト面の改善】

○中・高校生が気軽に意見を出せるよう、意見箱を設置します。

また、シールを貼る形式のアンケートなどの実施も検討しています。

○開館時間を最長 20 時 30 分まで延ばし、

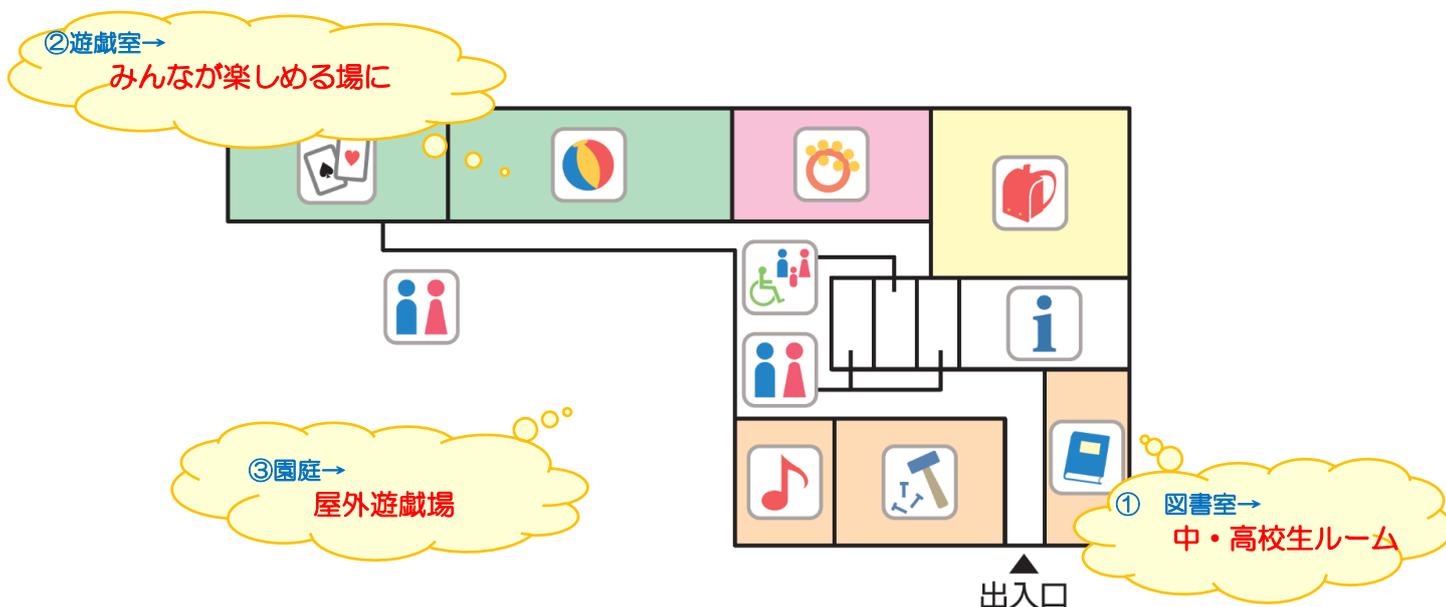
学校や部活動の後でも利用しやすくします。

【ハード面の改善】

まずは、堀ノ内東児童館の部屋の配置から、利用できそうな部屋を選び、出た意見を具体化してみました。



「赤坂 なんでも」



① 図書室を「中・高校生ルーム」とし、静かに過ごせる空間にします。

自習したい、友達同士でおしゃべりしたいという意見が多かったため、部屋を透明なクリアボードで仕切ります。

○貸し切り占有スペース（奥のスペース）

- ・友達同士で、予約占有使用ができます。
- ・スマホとプロジェクターをつないで、大きなスクリーンで動画を楽しめます。
- ・もちろん、Wi-Fi も取り付けます。
- ・予約がない時は、友達同士で話しながら勉強できるスペースとしても使えます。

○自習スペース、ゆったりスペースの確保（手前のスペース）

- ・使わなくなった参考書が使える「自習スペース」、クッションや漫画がある「ゆったりスペース」にします。

○Wi-Fi、スピーカー、PC の貸し出し。軽食販売機の設置

- ・トイレも安心して使えるよう、きれいにします。



現在の図書室



「赤坂 なんでも」

② 遊戯室は、時間や空間を区切り、みんなが楽しめる場にします。

「遊戯室は、小学生が多くて、思いっきり体を動かしにくい。」という意見から、場所と時間を区切り、みんなが楽しめる場にします。

○ネットでの仕切り

- ・遊戯室を、幼児から中高生まで共有利用できるよう、ネットで仕切ります。

○時間帯による優先利用

- ・乳幼児優先時間、小学生優先時間、中高生だけの時間にするなど、「時間を区切った優先利用」も行い、思いっきり遊べるような工夫もします。中高生の時間は、予約占有利用可能にします。

○フットサルゴールなど備品の貸し出し

- ・フットサルゴールなど、中高生のみが遊べる備品の貸し出しも行います。



現在の遊戯室



「赤坂 なんでも」

③ 園庭を屋外遊戯場として活用します。

「天井が低くて思いっきり体を動かしにくい。」という意見から、屋外球戯場の新たな設置を提案します。

○バスケットゴール、バレーボール用ネットポールの設置

- ・堀ノ内東児童館は都営住宅の1階部分にあり、特に天井が低いため、バスケットボールやバレーボールなどの遊びをすることが難しい状態です。そのため令和8年度に同じ建物内に隣設する保育園が移転するため、その園庭を「屋外遊技場」として、解放できたらと思っています。

権利のことなど難しいこともあるかもしれませんが、夏休みなど朝から小学生がいることを考えると、時間と場所の両方から考えたうえでの一案です。



「保育園 園庭」

<広報の充実と期待される効果>



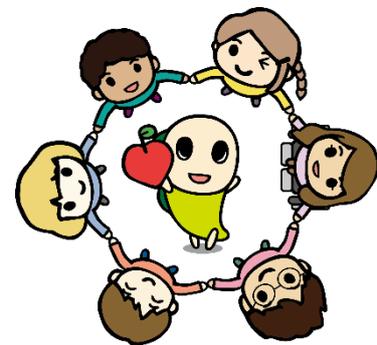
【広報の改善】

- 中・高校生専用のホームページを作成し、部屋の空き状況やイベント情報を分かりやすく発信します。
- Xや Instagram を活用し、最新の情報がスマホ一つで簡単に入手できるようにします。
- その他にも、中学生は、逆に「X」や「Instagram」は、親から許可が下りない子が多いため、HPでショート動画を流し、児童館の行事などを宣伝してはどうかと考えています。

<まとめ>

【実現のために必要なこと】

- 中・高校生の意見を取り入れた運営
- 開館時間の見直し
- 今ある施設を活かした設備の工夫
- ホームページや SNS を活用した情報発信



これらの取り組みを実現することで、堀ノ内東児童館は「今の私たちにとって使いやすく、これからも使い続けたい中・高校生機能優先館」になると考えています。

<おわりに>

今回、報告書作成にあたり、私たちは、「私たちの使いやすい・使い続けたい児童館」とは、なんだろうと考えることができました。

区の方には、中・高校生機能優先館を含め、今後、中・高校生のことを決める際は、私たちのような、ごく普通の中・高校生の意見も聞きながら作り上げていただきたいと思います。私たちも意見を伝え続けられるように頑張ります。

そして、乳幼児から中・高校生まで楽しめる場を作り上げるので、ご協力よろしくをお願いします。

中高生機能優先館になったら

【発表：子ども・子育てプラザ善福寺】

現在、1・2階は乳幼児親子の居場所、3階は小学生と中・高校生の居場所です。

中高生ルームにはソファ、マンガ、ボードゲームなどがあり、飲食、スマホの使用、ゲームの持ち込みが可能です。

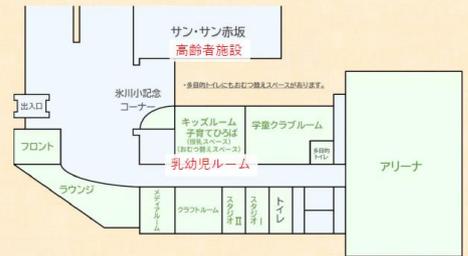


1. 杉並区中・高校生委員会合同事業 第3部 施設見学を経て港区立赤坂子ども中高生プラザ「なんで〜も」に行ってきました。

【気付いたこと】

乳幼児親子と小中高生の過ごす場所が、完全に分離していない設計

- ① 小中高生が使う部屋の並びに乳幼児ルームがある
- ② 畳のあるスペースや廊下を共有するような部屋の配置
→ 融合している部屋のつくりにより、小中高生と乳幼児親子の自然な触れ合いや交流が行われている。



2. 中高生機能優先館になった際の提案

① Wi-Fi の設置

理由：現在 ICT 化が進み、インターネットが日常的に関わってきている。

学習や調べものに、半分以上の中高生が Wi-Fi を使用するとアンケート結果がある。

② プレイホールの中高生専用時間を設ける

理由：中高生が無料で使える広い体育施設が近隣に少ない。

提案：利用者が利用したい時間に使用できることが望ましい。



③ キッズルームを異世代間の交流ができる部屋に変更する

テーマ「年代の壁を越えたつながりの創出」

理由：かつての児童館の特色を作る。児童館時代には、小学生と

中高生が交流できるスペースがあり、イベントや企画などではなく、何気ない関りが行える場所があった。

異世代間の交流を通して新たに成長する部分や利点があるため、

年代の壁を越えたつながりを創るために、乳幼児親子、

小中高生が自然に交流することができる部屋を作る。

若い世代は高齢者を「関わりにくい存在」と感じにくくなり、

高齢者も若者に対して理解をしやすくなることで、

社会的つながりの強化を目指す。



3. 異世代間交流の部屋がキッズルームである理由

①位置的な部分

赤坂子ども中高生プラザ「なんで～も」の部屋配置から考えました。

- ・一階はベビールームとプレイホールがあり乳幼児親子が多くいるため。
- ・階段近くで、中高生が三階のマルチルームに行くときに通り、交流が多いため。

②機能的な部分

- ・二面側がガラス窓になっていて、日が差し込みとても良い環境のため。
- ・公園が見ることもでき、公園とキッズルームの空間的なつながりと乳幼児親子と小中高生、公園で遊んでいる人の三視点からのコミュニケーション空間を持たせることができるため。
- ・児童館ならではの特色である畳の設置が一番しやすいため。

4. キッズルームの機能変更具体案について

現在は乳幼児親子が利用する部屋です。

変更後

- ・利用者は乳幼児～高校生（最終的には高齢者の利用も目指します）。
- ・利用者の幅を広げるにあたり、全利用者と職員でルールを決めていきます。



難易度別に変更範囲を分けて考える

A 案

①くつろげる畳を設置します。

- ・施設見学で、交流場所として畳の場所が使用されていたため。
- ・児童館時代の小中高交流スペースに畳のような「ござ」が使用されていたため。
- ・バリアフリーの観点からマット、畳に上がる箇所に簡易的なスロープを設置する。

②小中高生用のおもちゃを入れる棚を置きます。

小学生以上のおもちゃを乳児が誤って食べてしまう事故を防ぐために、置くおもちゃの高さの基準を設ける。

③公園とプラザ善福寺間の植林剪定を行い開放的にすることで、空間的なつながりを作り出します。

④ヨギボー、マンガを設置します。



↑ A 案

B 案

A 案から変更難易度を考えて変更点を加えました。

- ①公園の植林剪定が難しい可能性を考えます。
- ②キッズルームは乳幼児親子も利用する点から、スマホの使用を避けます。

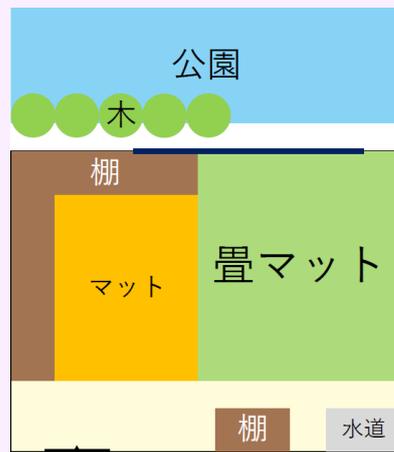


← B 案

C案

- B案から変更難易度を考えて変更点を加えました。
 - ①畳設置が難しい場合に畳マットを代用します。
 - ②小学生以上のおもちゃを置くことが難しい場合、乳幼児から高校生までが使用できる共有のおもちゃの設置を検討します。
 - ③ヨギボーは、設置範囲、衛生面管理、金銭面から難しい可能性を考えます。

C案 →



5. 異世代間交流の部屋に変更するにあたっての課題

①現時点のキッズルームの利用対象者は乳幼児のみ

工夫：利用対象を小中高生まで広げるに向けて乳幼児親子とも意見交換を行います。
委員会主体で交流イベント「中高生と乳幼児のふれあいタイム」を実施します。
交流と一緒に、アンケートなどで意見交換をします。

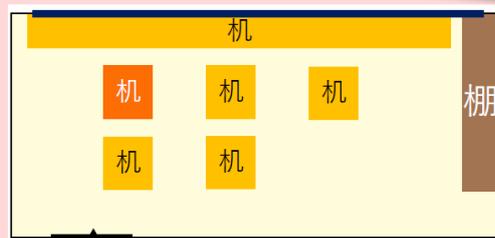
②機能面の変更が行いづらい

- 植林剪定が難しい場合は妥協案 B を提案します。
- バリアフリーやスロープ設置など畳の設置が難しい場合は妥協案 C を提案します。
- キッズルームが範囲的に仕様変更の対象として難しい場合
 - 時間や曜日など区切って実施する
 - 2階ラウンジを異世代間交流の部屋に変更する第二候補とする

ラウンジを交流できる部屋にする案

- 入口正面奥のローテーブルが憩いスペース
- 乳幼児から高校生までが使用できるおもちゃを置く
- お菓子が食べられる
- 約束：人を傷つける言葉を使用しない
 - 寝そべらない
 - ランチタイムの利用制限

ラウンジ案 ↓



6. 中高生機能優先館となったら

- ふれあいタイムを実施し、全利用者の意見を聞いてルールなどを決めていきます。
- 利用を開始後も、利用者や委員会内で振り返りを行います。



杉並区地域中・高校生委員会設置要領

平成14年4月25日

杉保青発第33号

改正 平成19年9月19日19杉並第39007号

平成28年12月9日杉並第46441号

(設置)

第1条 杉並区内の中・高校生の、地域における身近な居場所作り、意見交換の場の提供及び社会参画の機会を創出するために、杉並区児童館のブロック運営要領（平成6年3月22日杉児福発第683号）に定める各地域児童館等の中・高校生委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について意見交換を行い、その結果を児童青少年課長に意思表示を行うことができる。

- (1) 中・高校生にも利用しやすい児童館等の利用方法や日常運営に関すること。
- (2) 中・高校生自身が自主的に企画する事業や活動に関すること。
- (3) 地域における中・高校生の活動に関すること。
- (4) その他必要な事項。

(構成及び募集)

第3条 委員会は、各地域児童館等周辺の中学校・高等学校の生徒の中から、児童青少年課長が指名する概ね10人で構成する。

2 委員の募集は、公募及び各地域児童館等周辺の中学校・高等学校からの推薦による。

(任期)

第4条 委員の任期は1年間を単位とし、18歳の誕生日を迎える年度まで再任できるものとする。

2 委員の募集及び改選は、原則として年度当初より5月までに実施する。

(委員長・副委員長)

第5条 委員会に委員長・副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

(部会の設置)

第7条 委員長は、委員会の承認を得て、特定の事項に関する活動を行なう部会を設置することができる。

2 部会に部会長を置き、委員長が指名する者をもって充てる。

3 部会は、部会長が指名する者をもって構成する。

4 部会長は、部会を招集し、会議の経過および結果を委員会に報告する。

(事務局)

第8条 委員会の事務局を各地域児童館等に置き、委員会の開催に必要な事項について処理する。

2 事務局に事務局長及び事務局員を置く。事務局長は、地域児童館等の館長（子ども・子育てプラザ

においては所長（以下、「館長等」という。))とし、事務局員は、当該館長等が指名した職員とする。

3 児童青少年課長は、事務局協力員を青少年委員に依頼することができる。

（中・高校生委員会連絡会）

第9条 各委員会及び児童青少年センター中・高校生運営委員会設置要領（平成9年5月1日杉児福発第50号）に定める中・高校生運営委員会（以下「運営委員会」という。）の連絡調整のため、中・高校生委員会連絡会（以下「連絡会」という。）を置き、次に掲げる事項について意見交換等を行う。

- （1）各委員会及び運営委員会の活動状況等情報交換
- （2）各委員会及び運営委員会の共通の課題等に関する意見交換
- （3）各委員会、運営委員会及び児童青少年課長からの提案事項

2 連絡会は、各委員会及び運営委員会の正副委員長により組織する。

3 連絡会に代表を置き、委員の互選によってこれを定める。

4 連絡会は代表が招集する。

5 代表は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。

6 連絡会の事務局を児童青少年課児童館運営係に置き、児童館運営係職員がその事務を処理する。

（委任）

第10条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、児童青少年課長が別に定める。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から適用する。

附 則（平成19年9月19日杉並第39007号）

この要領は、平成19年4月1日から適用する。

附 則（平成28年12月9日杉並第46441号）

この要領は、平成28年12月11日から適用する。

杉並区立児童青少年センター中・高校生運営委員会設置要領

平成9年5月1日

杉児福発第50号

改正 平成17年5月27日17杉並第17695号 平成20年3月17日19杉並第83424号
平成24年4月25日24杉並第3711号 平成31年3月22日杉並第68609号

(目的)

第1条 この要領は、杉並区立児童青少年センター（以下「センター」という。）において、主たる利用者である中・高校生自身が、施設の運営に対する意見を述べ、事業の企画や準備、実施の中心となることで、中・高校生の自主性を促進するとともに、センターを中・高校生にとって魅力ある施設とするため、杉並区立児童青少年センター中・高校生運営委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その運営に必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について意見交換を行うものとする。

- (1) センター各室及び物品の利用方法並びに日常運営に関すること。
- (2) 講座、講習会、講演会、大会などセンター主催事業に関すること。
- (3) 委員会自主企画事業に関すること。
- (4) その他必要な事項

(構成及び募集)

第3条 委員会は、区内在住・在学又は児童青少年センターを利用する中学生から18歳までの児童及び高等学校に在学する19歳の児童のうち、児童青少年課長が委嘱するおおむね20名で構成する。

2 委員の募集は、公募及び中学校・高等学校からの推薦による。

(任期)

第4条 委員の任期は原則1年間とし、18歳の誕生日を迎える年度まで再任できるものとする。ただし、高等学校に在学する者に限り、19歳の誕生日を迎える年度まで再任を可とする。

2 委員の募集及び改選は、原則として年度当初より6月までに実施する。

(委員長・副委員長)

第5条 委員会に委員長・副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

3 委員会は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の出席を求め、意見を聞くことができる。

(部会の設置)

第7条 委員会は、会の承認を得て、特定の事項に関する活動を行う部会を設置することができる。

2 部会に部会長を置き、部会員の互選によってこれを定める。

3 部会は、委員及びその他の中・高校生をもって構成する。

4 部会長は、部会を招集し、会議の経過及び結果を委員会に報告する。

(事務局)

第8条 委員会の事務局を児童青少年課に置き、委員会の開催に必要な事項について処理する。

2 事務局に事務局長及び事務局員を置く。事務局長は、児童青少年課長が指名する係長級とし、事務局員は、児童青少年課に所属する職員とする。

(その他)

第9条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成9年5月1日から適用する。

附則(平成20年3月17日杉並第83424号)

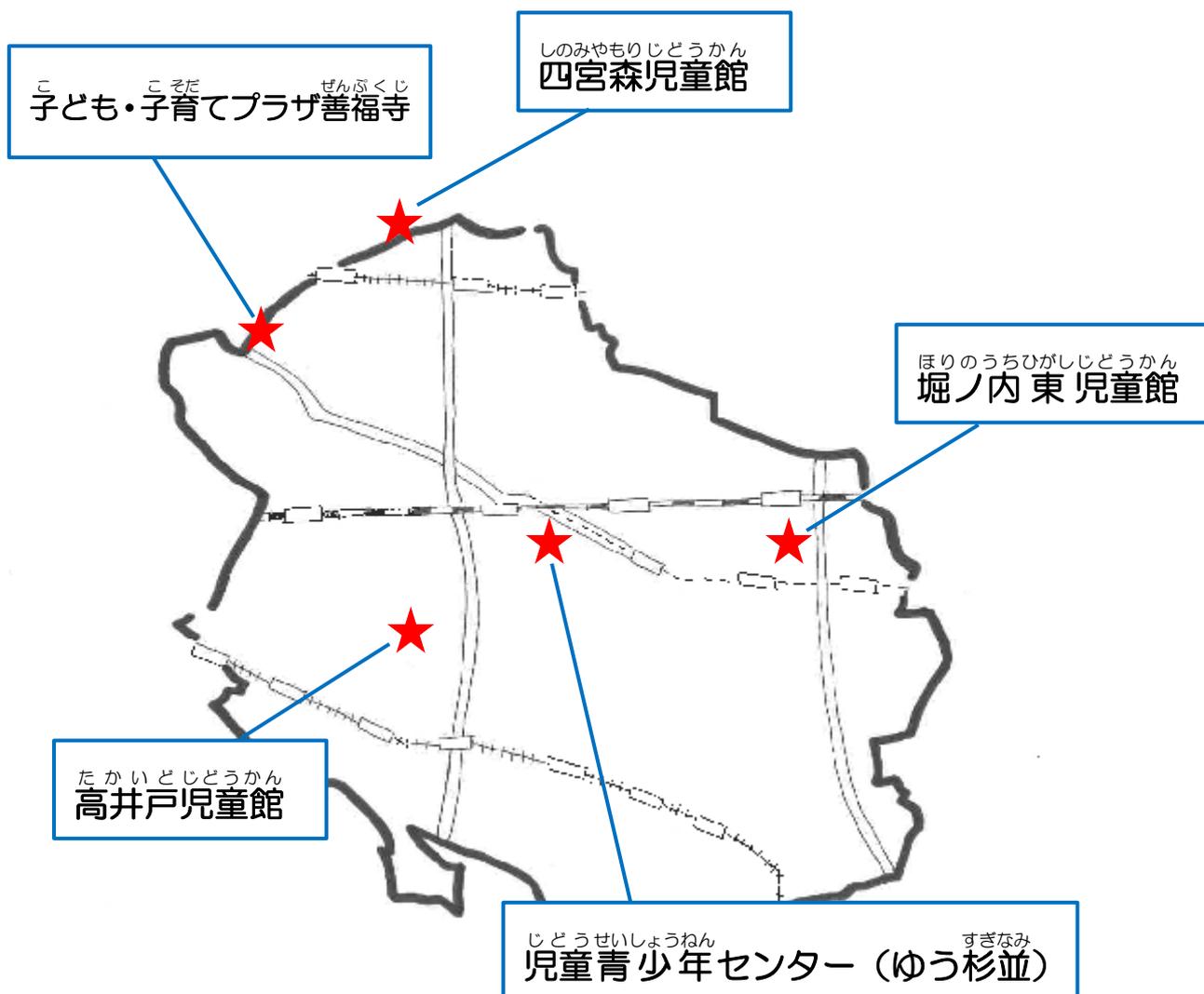
この要綱は、平成20年4月1日から適用する。

附則(平成24年4月25日杉並第3711号)

この要綱は、平成24年5月1日から適用する。

附則(平成31年3月22日杉並第68609号)

この要綱は、平成31年4月1日から適用する。



令和7年度 杉並区中・高校生委員会 活動報告書

令和8年3月発行

発行 杉並区中・高校生委員会事務局

★堀ノ内東児童館	杉並区堀ノ内3-49-19-101	電話03-3315-7923
★四宮森児童館	杉並区上井草2-41-11	電話03-3395-1574
★高井戸児童館	杉並区高井戸西2-5-10	電話03-3334-0902
★子ども・子育てプラザ善福寺	杉並区善福寺1-18-9	電話03-3395-1576
★児童青少年センター（ゆう杉並）	杉並区荻窪1-56-3	電話03-3393-4760